

Ⅳ－５ 小松島港本港地区等活性化計画における住民ワークショップの開催事例について

(株) 建設材料試験所 正会員 ○松永 昭博 小松島市役所商工港湾課 木村 秀
(財) 港湾空間高度化センター 岡本 英徳 徳島大学工学部 正会員 山中 英生

1. はじめに

最近、社会資本整備の主な課題が拡大型社会における広域の社会資本の開発一辺倒から安定型社会における身近な環境の整備・保全へと移ってきたことを反映して、住民参加型まちづくりが広く行われるようになった。計画策定の1つの手段として用いられるワークショップ（以下、WS と略記）も手法の開発と実践によりその有効性を認められつつある。本報告は、小松島市の中心市街地にある小松島港本港地区の活性化を目的とした整備計画案づくりにおける住民 WS の開催事例について紹介する。

2. WS の概要

(1)WS の背景と目的

小松島港本港地区は、小松島市の中心市街地にあり徳島県の玄関港として古くから栄えてきた。しかし、旧国鉄小松島港線の廃止や高速道路の整備など交通体系の再編、平成 11 年 4 月の南海フェリーの航路移転に伴い港湾施設の遊休化が進んでいる。こうした中で、小松島市、徳島県、運輸省による本港地区とその周辺の活性化計画の検討が始まった。小松島港 WS は、活性化計画の整備計画案づくりに幅広く住民の声を反映させることを目的として企画された。

(2) WS の構成とスケジュール

小松島港 WS は、平成 11 年 10 月から平成 12 年 4 月までの間に全 5 回開催される予定で 3 月末現在で 4 回開催された。WS の概要を表 1 に示す。WS で抽出された情報をもとに「小松島港本港地区等活性化調査検討委員会」が整備計画の検討・策定を実施した。計画策定プロセスと WS の関連を図 1 に示す。

表 1 小松島港 WS の概要

WS	日時	参加者(名)	目的
プレ	1999 年 10/2(土) 15:30～19:00	市 民：14 行 政： 7 専門家： 7	現況・地域ニーズ の抽出
第 1 回	11/6(土) 13:30～17:00	市 民：13 行 政： 6 専門家： 8	地域資源の発掘 整備イメージの 抽出
第 2 回	12/11(土) 13:30～17:00 ※12/13(月)	市 民： 9 行 政： 7 専門家： 7	空間プランの検 討
第 3 回	2000 年 2/26(土) 13:30～17:00	市 民：19 行 政： 5 専門家： 6	フェリーターミナル利用方 策案の抽出
第 4 回 (予定)	4/23(日) 13:30～17:00		整備計画の報告

注) 第 2 回 WS は 2 日間開催でいずれか 1 日を選択参加

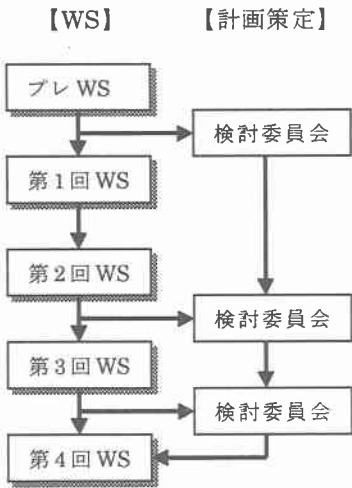


図 1 計画策定プロセス

(3)WS の参加形態

WS の参加登録者は 69 名で、その所属別、居住地別の人数と構成を表 2 に示す。参加登録者の特徴は、地元市民の参加登録者が 6 割を占めること、行政の参加登録者が 7 名と多数得られたこと、専門家の参加登録者がほとんど小松島市外に居住していることである。市民の参加者募集は、WS 開催前から開催期間中を通し表 3 に示す方法で行った。募集形態別の人数は、紹介 19 名、1 次募集 14 名、口コミ 2 名、2 次募集 18 名となっている。

表 2 参加登録者の人数と構成

所 属	居住地		合 計
	小松島 市内	小松島 市外	
市 民	42 名	11 名	53 名
行 政	4 名	3 名	7 名
専門家	1 名	8 名	9 名
合 計	47 名	22 名	69 名

表 3 市民参加者の募集方法

時 期	募 集 形 態	募集方法
プレ 開催前	紹 介	・ 地元団体への参加者の紹介依頼
	1 次募集	・ 地元新聞への参加者募集記事の掲載
開催後	口コミ	・ 参加者の口コミ
	2 次募集	・ 小松島市広報誌への参加募集ビラの 折り込み ・ 地元新聞への参加者募集記事の掲載

3. WS のプログラムと成果

ブレWSは“WSを体験しよう！”をテーマに現地及び小松島市役所で開催された。最初に活性化計画の対象区域である本港地区とその周辺のタウンウォッチングを行った。現地では、参加者が現況・地域ニーズの抽出として本港地区で【したいこと】を考え、お気に入りの風景などを【インスタントカメラに撮影】し【タイトル】をつけた。【したいこと】はアフォーダンス情報である行動の抽出を意図したものであったが、具体的な施設提案や施策提案も多く見られた。次に会場を市役所へ移し、WSの説明と自分が撮影した写真を紹介し初対面の参加者同士のコミュニケーションを図った。最後に小松島に対する【将来の夢や希望】を考えた。【したいこと】と同様【将来の夢や希望】においても施設や施策の提案が多く見られ、対象区域の将来ビジョンに対する個々の参加者の関心の高さがうかがわれた。

第1回WSは“あなたの意見や夢を出そう！”をテーマにミリカホールで開催された。本港地区の状況説明とブレWSの結果報告の後、4グループに分かれて本港地区とその周辺の【よいところ・活かしたいもの】を探し『地域資源マップ』を作成した。ブレWSで抽出した【したいこと】の人気投票を自己と他者のロールプレイにより行った。【したいこと】の上位3つは、食べる、釣りをする、風呂に入るで、行動の類型別では、憩いや癒しに関する行動が最も多かった。次に【したいこと】を各グループで8～10個程度選び、【したいこと】に対する【状況】と【欲しい施設や仕組み】を考え、『コンセプトシート』にまとめた。

第2回WSは、“本港地区の整備イメージをまとめよう！”をテーマに小松島市総合コミュニティセンターで開催された。第1回WSの結果報告の後、ファシリテーショングラフィックにより参加者全員で本港地区の整備の方向性を共有した。前回WSの成果である各グループの『コンセプトシート』に出された意見を大きく3つに整備テーマ別に分類し、意見の補足・追加・共有を行った。整備テーマは、①港・憩う・癒す・文化にふれる、②港・食べる・飲む・買い物をする、③港・陸で遊ぶ・海で遊ぶ、である。今回のWSで初めての全体討議であったが、アイデアを複合した意見が見られるなど議論は活発であった。次に参加者が選んだ整備テーマ別のグループに分かれ、本港地区整備の【ハード提案】・【ソフト提案】・【留意点】を記入した3色の旗を地図の上に立て『アイデアマップ』を作成した。

第3回WSは“フェリーターミナルの利用を考えよう！”をテーマに小松島市総合福祉センターで開催された。今回は、本港地区の中でも緊急的な課題である遊休化したフェリーターミナルの再利用に焦点を絞ったWSである。第2回WSの結果報告の後、全体討議によりフェリーターミナル利用に的を絞ったアイデアの補足・追加・共有を行った。自分を取り組みたいアイデアの人気投票で上位3つは、リサイクルショップ・フリーマーケット基地、ヨットハーバー、ライブハウスであった。次にアイデア別の6つのグループに分かれアイデアの【利用形態】、【運営・営業形態】、実現に向けた【活動】と【活動する人】、【外部条件】について考え『プロジェクトシート』にまとめた。緊急的な課題に対するテーマと具体的な活動計画を考えるワークであったため、参加者自身が実現に向けた手応えを感じていることが参加者アンケートの結果からうかがえる。また、WS意見を反映した活性化計画案が第3回WS開催後の検討委員会で承認された。

4. おわりに

最後に本WSの試みとして次のことが挙げられる。本WSでは行政、専門家の参加者について参加の連続性がほぼ得られたが、市民参加者の参加の連続性は得られにくかった。参加が不連続になることに対して、プログラム上の工夫、たとえば前回WSで出された意見の補足・追加というプロセスを共有することで、不連続参加者も連続するプランづくりのワークをスムーズに行うことができた。また、住民がつくったプランは稚拙であるという意見があるが、一方でWSの結果が目に見える形にならないと住民の参加に対する満足感も得られない。こういったプランニングの専門性と参加者の参加に対する満足感のバランスを『アイデアマップ』の作成である程度はかることができた。今後、『アイデアマップ』の作成といった空間プラン検討の前ステップに、参加者がアイデアの実現性を評価するプログラム内容を取り入れればプランづくりの質の向上が図れるものと考えられる。